

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901217		
法人名	有限会社 グループホーム東光		
事業所名	グループホーム「東光」		
所在地	北海道旭川市東光10条1丁目1番8号 (電話) 0166-32-8071		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年11月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年3月26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	10人, 非常勤 12人, 常勤換算 9.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	21,000~27,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,350 円	

(4) 利用者の概要(11月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2	6 名			
要介護3	4 名	要介護4	6 名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	84.8 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林医院・中島病院・くにもと医院・藤田歯科・はらだ病院・佐野病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中学生のボランティアや高校生の体験学習の受け入れ、ホーム主催の夏祭り等の行事参加を地域に呼びかけたり地域との連携や協力体制が整い認知症に対する理解や広報に取り組まれています。また、ヒヤリ・ハットで事故の未然防止に向けたデータ収集と分析の取り組みや車両での通院や外出時に交通事故防止の為に「介護中」のステッカーを車両に貼るなど交通安全の取り組みも行われています。身体機能の維持・向上のために嚙下体操を取り入れたり、持続可能な日常生活を送れるように良く工夫された「手すり」が配置されケアサービスの質の向上に取り組まれています。さらに、検食を4日間保存して、トレーサビリティへの取り組みも実施されています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、予防処置の有効性について取り上げられていましたが、未だ起きていない事故をヒヤリ・ハットで情報収集して職員会議で話し合わせ事故の未然防止と再発防止・改善策が職員間で共有されて議事録として記録されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、管理者・職員が参加して取り込まれ且つ職員の研修の機会としても捉えられてケアサービスの質の向上に利用されています。また、外部評価の結果については、家族会や運営推進会議で報告され改善の機会として取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在4回実施されています。その議題については利用者の状況について グループホーム東光及び家族会行事について 入居者との懇談 ボランティアの受入れについて グループホーム内で喫茶店を開店しながら意見交換が行われています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月「東光だより」を発行して、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子など家族に伝え喜ばれています。また、来訪時には意見や不安などが言いやすい雰囲気づくりをしています。家族会では、外食行事や敬老会、夏祭りについて連携や協力が行われてケアサービスの質の向上にも活かされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の民謡大会の行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りを町内会に回覧で案内して参加を呼びかけるなど地域の人達との交流が促進される取り組みが行われています。また、近隣への散歩やスーパーでの買い物、中・高校生の体験学習の受け入れなど日常生活を通じて地域との連携が行われています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりが地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を元に具体的な個々の介助理念として目標を掲げている。また、その達成度について事業者と話し合わせ有効性の評価が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民謡大会の行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りを町内会に回覧で案内して参加を呼びかけるなど地域の人達との交流が促進される取り組みが行われています。また、近隣への散歩やスーパーでの買い物、中・高校生の体験学習の受け入れなど日常生活を通じて地域との連携が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者・職員が参加して取組みられ且つ職員の研修の機会としても捉えられてケアサービスの質の向上に利用されています。また、外部評価の結果については、家族会や運営推進会議で報告され改善の機会として取組みられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在4回開催されている。メンバーは利用者、家族会代表、町内会役員、提携医療機関の在宅支援室長、法人役員及び管理者・職員で構成され具体的に意見交換されてサービス向上に活かされている。</p>		<p>運営推進会議の議事録は、市担当者に報告されています。今後は、地域に密着した火災避難訓練など行政と連携した取り組みを地域へも広げていく取り組みが検討されています。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、市担当者に運営推進会議の議事録を報告してケアサービスの向上に日々取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「東光だより」を発行して、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子など家族に伝え喜ばれています。また家族会では、外食行事や敬老会、夏祭りについて連携や協力が行われてケアサービスの質の向上にも活かされています。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>自己評価・外部評価の結果については、家族会や運営推進会議に報告され意見を聞く機会を作ったり、来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりに取り組んだり、苦情相談窓口を明確にして気軽に意見や苦情・相談ができる体制を整備して、それらを運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員間の人間関係も良好で、離職率は低い。また、管理者は職員の異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加を奨励して、参加者の報告会でフォローアップされている。また、月一度開催される全体会議で職場内研修やOJTが実施がされ、職員を育てる取り組みがされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研究会で他施設との交流が行われている。また、包括支援センターでの研修会参加も行われケアサービスの質の向上に取り組まれている。		今後は、包括支援センターとのさらなる連携に向けて取り組むことが検討されている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と一緒に食事の準備や後片付けをしたり、本人の思いを尊重して散歩や買物、バイキングなどの外食、飛行場までのドライブで気分転換をするなど支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	過去の生活歴を把握して、散歩や買い物、公園までのドライブ、花壇の手入れや畑作業など積極的に外出の機会を多く作ったり、編み物などの趣味への支援や食事の準備・後片付け、食の嗜好の把握など本人の希望や意向を尊重した取り組みが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画はセンター方式を元に作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、介護支援専門員の適切な監理のもとに、3ヶ月に一度計画的に見直しが行われています。また、利用者の状態変化に応じて都度、現状に即した介護計画の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や要望のある場合には散歩や買い物など柔軟に支援を行っている。また、神楽岡公園散策など時々々の要望にも対応されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が配置されていたり、利用者それぞれの主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について医療機関と連携して、利用者・家族とも話し合いながら対応するよう職員間で共有される取り組みがされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した声かけなど支援するよう取り組まれています。また、個人情報の取り扱いについては配慮されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや意向を尊重して、散歩やスーパーでの買い物、食事の手伝いや後片付け、漬け物や花壇の手入れなど本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒になって楽しんで食事して、和やかな雰囲気を出している。食事中は、利用者同士助け合い、食事が楽しみなものになっていました。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決めているが利用者の希望やタイミングに応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式で一人ひとりの過去の大事な出来事や生活歴が把握され、縫い物や畑でのトマトや茄子などの野菜の栽培や収穫、食事の準備・後片付け、バイキングなどの外食や買い物、気分転換のためのドライブなど外出の機会も多くつくられている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーでの買い物、散歩、お祭り見物、神楽岡公園までのドライブなど気分転換ができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室・玄関は、鍵をかけずに自由に入出入りできるように取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	資格を持った防火管理者が配置され、火災避難訓練が年2回実施されています。また、消火設備についても点検が実施され対策されています。		今後は、近隣の住民も参加した火災避難訓練を実施して、日頃より協力が得られる働きかけを行う計画がされています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な水分・食事摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、利用者にとって不快な音の大きさや光の強さ、気になる臭いは感じられない。また、廊下の壁には利用者の手作りの作品や行事参加の写真が飾られて和やかな雰囲気を感じられた。また、リビングには、椅子やテーブルが配置され一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保され配慮された工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇やタンス、ベッド、使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっていて一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。